

映像で記録する、伝える

博物館では「土浦の歴史と民俗」映像ソフトの制作をすすめてきました。博物館の展示資料は、古文書や絵図、武器、民具などのモノが中心で

すが、むかしの米作りや霞ヶ浦の伝統漁法、祭りや年中行事も、歴史と文化を語る大切な資料(文化財)です。展示ケースに並べることができな



再現された天狗の大人形(「神立の天狗様」より)

い、これらの「かたち」のない文化財(無形民俗文化財)について、平成2年度以降に制作した映像ソフトからご紹介します。

祭りや年中行事には、地区ごとに行われるものと、家ごとに行われるものがあります。たとえば「矢作の弓神事」、「佐野子の盆綱」、「飯田の虫送り」は、地区で行われる特色ある行事を記録したものです。これらは土浦市の無形民俗文化財にも指定されています。「土浦の村」乙戸町の年中行事」は、乙戸地区の当番にあたった家が順番に鹿島神社の祭りを担当(とうやせ)を中心に、百万遍や犬供養などの儀礼を記録したものです。ひとつの地区に多くの行事や儀礼があったことが分かります。

西神立の源兵衛新田で旧暦8月15日に行われていた「神立の天狗様」は、杉の葉で作った男女二体の大人形に天狗の

面をつけ、集落の入口に立てて疫病除けにしたものです。昭和43年に途絶えた行事を、地元の方々に再現していただき記録しました。この神立の天狗様とよく似た風習が、江戸時代の日記に登場します。

土浦城下の国学者色川三中将(いろかわみなか)文政10(1827)年の日記に、水辺の村々では辻に杉の葉で人形を大きく造って立てて置き、悪病が入らないようにしていることを記しているのです。三中の記事は神立の天狗様を彷彿とさせます。文字で記録された歴史に、無形の民俗を重ね合わせることで、歴史的な世界をより豊かに描くことができます。

家ごとの行事では「富岡家の年中行事」、「坂本家の歳棚づくり」などがあります。特に白鳥の富岡家の年中行事は、正月、彼岸、七夕、盆、十五夜、氏神祭り、恵比寿様など、旧家を舞台にした多彩

な儀礼と行事が収録された作品です。富岡家の屋敷の内外に祀(まつ)られている神々はじつに14を数え、四季折々に神々や先祖の供養に必要な供物(食物)や道具を調べ、祭りが行われていました。

祭りや年中行事には、すでに行われなくなつたものや内容をかえてしまったものもあります。人から人へと伝承される無形の民俗文化財は、行事の変容や少子・高齢化による担い手不足、祭りに必要な材料の入手困難など、社会の変化の影響を絶えず受けてきました。しかし、地域の方々が守り伝え、ご協力を得られたことで、さまざまな民俗文化財を映像に残すことができました。制作した映像ソフトは、民俗文化財を知る材料となるばかりでなく、時代と社会を記録したものととして、今後ますます貴重な資料になることでしょう。



氏神まつりの様子(「富岡家の年中行事」より)

「土浦の歴史と民俗」映像ソフトは、博物館の「情報ライブラリー」で常時ご鑑賞いただけます。

◎ご紹介したもののほかに、「中貫の明神祭り」、「大岩田の奉納相撲」、「粟野の麦わら天王様」、「鷲の宮神社の節分」、「霞ヶ浦大師講」や、新治地区の灯心(とうしん)の栽培・加工法、農家のはたおりに関する映像ソフトがあります。

岡市立博物館

(☎824・2928)